

# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月22日（月）～令和2年6月28日（日）〔令和2年第26週〕の感染症発生状況

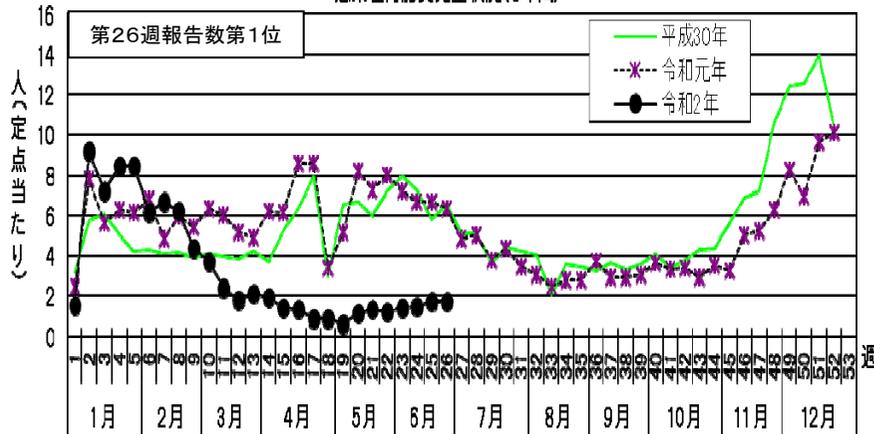
第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)突発性発しんでした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（1.73人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.62人と前週（0.65人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.41人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

★大腸菌O157★  
イーコリ

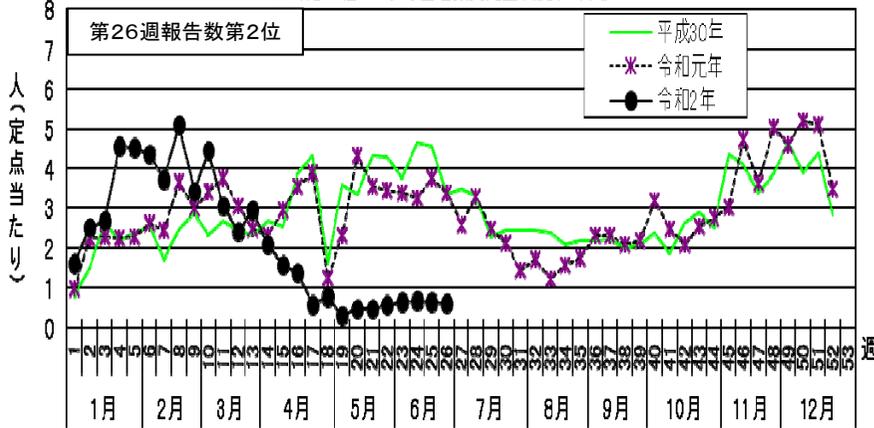


要注意！

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## 夏季に増える感染症～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌（O157、O26、O111など）を原因とする疾患です。激しい腹痛とともに頻回の水様性下痢、血便などを呈し、汚染された食品や患者の便を介して感染します。

川崎市では、今年は、令和2年第26週（6月22日～6月28日）までに計7件の報告がありました。例年、6月～9月にかけて気温の上昇とともに患者数が増加しますので、食品の適切な取扱いや手洗いなど予防対策を徹底しましょう。

### 腸管出血性大腸菌感染症とは？

#### 【感染経路】

- ▶ 菌に汚染された食品などによる経口感染
- ▶ 患者の便を介した二次感染

#### 【潜伏期間】

1～14日間（平均3～5日間）

#### 【主な症状】

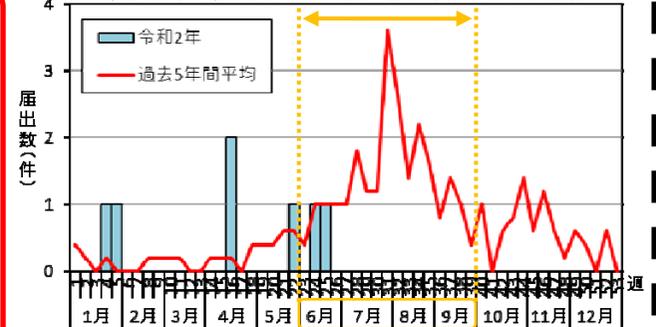
激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など

#### 【予防対策】

- ▶ 生野菜は流水でよく洗う。
- ▶ 肉類は中心部まで十分に加熱する。
- ▶ 手洗いや消毒を徹底する。



川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況  
-令和2年(第26週まで)と過去5年間平均の比較-



乳幼児や高齢者は溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重症合併症を起こすことがあります。  
 激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

